

## 第 45 回日本小児感染症学会

## 第 45 回学術集会レポート 表彰式

研究教育委員会委員長 森内浩幸

賞の内容について説明させていただきます。

Young Investigator Award (YIA) は、学術集会に筆頭演者として抄録を提出されたまだ受賞経験のない 40 歳未満 (翌年 4 月の時点で) の会員のなかから、毎年 3 名選んでおります。平成 20 年度までは、優秀演題賞として年齢制限や受賞経験の有無を問わずに選出していたものです。受賞者へは副賞として、次年度の Asian Society for Pediatric Infectious Diseases (ASPID) または Asian Society for Pediatric Research (ASPR) に参加し研究内容を発表するための補助金 (10 万円) を贈呈いたします。また、1 位選出の受賞者は、日本小児科学会が Pediatric Academic Societies (PAS) 発表者として派遣する活動に関して、本学会から候補者として推薦しています。

研究プロジェクト助成金は、小児感染症・免疫にかかわる研究を奨励し援助することを目的に平成 18 年度から開始しました。当初は研究奨励賞という名称でしたが、一昨年より名称変更しております。特に研究費の捻出が困難な一般病院や開業医の先生方の応募を強く歓迎し募集しているもので、受賞者は 40 万円の研究助成金が授与されます。義務として奨励金使途およびそれによる研究成果の概要を、学会誌において報告し、また研究成果は本学会学術集会においても発表していただきます。



授賞式の模様です。堤理事長の両脇に YIA 受賞者 3 名と研究プロジェクト助成金受賞者 2 名が勢揃いしました。本学会の将来を背負って立つ頼もしい面々です。

(左から) 岩澤堅太郎先生、鳥居ゆか先生、後藤研誠先生、堤裕幸理事長、武山彩先生、樋泉道子先生



後藤研誠先生は「マクロライド耐性遺伝子変異を認めた肺炎マイコプラズマの臨床像」で YIA を受賞しました。この研究は、臨床現場で大きな話題となった肺炎マイコプラズマのマクロライド耐性の問題を、豊富な臨床データとマイコプラズマ遺伝子解析で掘り下げたものです。今回最高得点での受賞でした。



鳥居ゆか先生は「メタボローム解析を用いたインフルエンザ脳症・HHV-6 脳症における新規バイオマーカーの探索」で YIA を受賞しました。生体内の低分子代謝物質を網羅的に解析することで、ウイルス性脳症の新規バイオマーカーを特定することを目指した素晴らしい研究です。子育てしながら頑張っています。



岩澤堅太郎先生は「HBV 母子感染例における HBIG+HB ワクチン投与の有用性」で YIA を受賞しました。「生後 1 カ月時に HBs 抗原陽性の子には、HB ワクチンを接種しても意味がない」という日本の小児科医にとっての常識を、見事に引っ繰り返してくれました。すごい！



樋泉道子先生は「ベトナム・カンホア省で発生した先天性風疹症候群の追跡調査：継続的な臨床的評価と医療支援体制の構築に向けて」で、研究プロジェクト助成金を獲得されました。日本でも話題になった先天性風疹症候群ですが、ベトナムの一地域だけで日本全国並みの患者さん（約 40 名）が発生しています。



武山彩先生は「RS ウイルス下気道炎による入院患児における鼻汁中ウイルス量の継時的推移の検討」で、研究プロジェクト助成金を獲得されました。一般病院ならではの臨床的な課題に取り組んで頑張っています。被災地福島的一般病院で、診療の合間を縫って研究に打ち込む皆さんにエールを送ります！

2014 年 10 月に東京で開催される学術集会でも、きっとこれまで以上に素晴らしい演題が発表されることでしょう。若手会員の活躍が本学会を発展させ、子どもたちの健やかな未来を切り開きます。またピカピカの若手会員を次回も皆さんにご紹介できることと思います。

本年度も研究プロジェクト助成金にどしどしご応募ください。また YIA を目指して、素晴らしい演題をお出しください。東京でお会いしましょう！